

決意表明

謹啓 皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

北九州市議会議員の大石仁人と申します。突然のお手紙をお許し下さい。

私はこのたび、福岡十区にて、次期衆議院議員選挙に挑むことを決意いたしました。

北九州市小倉北区に生まれ育った私は、父母と姉二人、母方の祖母が同居するごく一般的な家庭で育ちました。国内、世界を見て廻り、様々なチャレンジを通じて、ふるさと北九州市、そして日本への愛が深まりました。また自分を客観視し、「自分は何のために生きているのか」「自分にとって何が大切なのか」を常に考えしてきました。

こうした経験から、大学卒業後、世界で活躍できる日本人を育てたいと高校教師になりました。子どもたちと向き合う中で、大人の関わり方一つで、子どもの未来、生き方が変わることに、人の持つエネルギーを引き出すきっかけになることを実感する日々でした。

教師として大きなやりがいを感じていた頃、二つ上の姉が二十八歳の若さで他界、その七年後には母を六十五歳で亡くすという、大きな悲しみを立て続けに経験しました。

とても元気だった大切な二人がこの世からいなくなった時、誰かのために自分が生きられる時間は長くないことを突きつけられました。自分の命をどう使い、今をどう生きるべきか。一度きりの人生、思い切って悔いのないように生きようと心に決めました。

そして、自分の命は、この街でこの国で命を繋いでいく子どもたちの未来のために燃やし尽くしたい。また子どもたちや若者が未来に希望を持てる北九州市、日本国にしたいと思い、高校教師を辞めて政治の世界に入る決断をしました。

市議会議員として過ごした時間の多くは、コロナ禍で教育現場から多くのものが失われた時間でもありました。厳しい状況でしたが、市内小中学校や学童など、多様な現場に可能な限り足を運びました。先進的に取り組む

自治体や学校の視察、研究を通じて、教育への知見を深めてきました。

これらの活動を通じて、自己肯定感が高く、困難な課題にも果敢にチャレンジできる骨太な子どもを育てるためには、地域での多様な経験が必要であると強く感じ、そのモデルケースを作るべく、実践を重ねました。先般の市議会において、子どもたちの様々な学びや体験活動を可能とする「放課後アソビ事業」等を実現できたことは、北九州市の未来を担う人づくりのために、大きな一歩であったと自負しています。

しかしその一方で、教師時代から現在まで、子どもたちや若者が苦しんでいる姿も目の当たりにしてきました。

「自分が何をしたいのか分からない」「自分の存在意義が見つからない」…私が教師になってからの短期間でも、失敗を極端に恐れ、自分の意志よりも一般的な正解を求める生徒の増加、コミュニケーション能力の著しい低下を感じざるを得ませんでした。また中小企業の社長の皆さん達からは、自身の会社を託せる後継者不足や人材不足の実態を多く聞きました。

このままでは日本の未来はどうなってしまおうのか。北九州市の未来を描くことができるのか。

実際、不登校や引きこもりの増加、過去最高の自殺者数、生きづらさを抱える子どもたちの増加は、もう見過ごすことはできません。「人づくり」こそ、資源のない我が国日本を支えてきた基盤であり、経済と社会の発展を担ってきたものなのです。

この状況を打破してこの国を立て直すためには、国力の根幹である「人づくり」に命をかけて取り組まなければならぬ。それらも、今すぐに始めなければならぬ。もう、矢も楯もたまらず、動き出したい。日本の未来のため、我が故郷北九州市の未来のため、一刻の猶予もありません。そのため、私は残りの人生をかけて、日本の「人づくり」に自らの命を燃やす覚悟に至りました。

折しも、先の北九州市長選挙では、私はともに未来を描ける同志である武内市長を応援し、新しい北九州市政が始まりました。北九州市がスピード感をもって前に進み始めている今、強固な信頼関係を持つ私は、市議として仕事やりやすい環境にいるかもしれません。

しかし、日本国が対峙しなければならぬ、もう一刻の猶予もない「人づくり」という課題へ、そして日本と北九州市の経済と社会の立て直しへ、私は今の立ち位置を全て投げ打つてでも立ち向かいたい。

教師、市議としての経験を通じて「人づくり」を実践し、人と向き合い、自らをもたたき上げてきた自分に、その力を与えていただけないでしょうか。不屈の信念で、真つすぐに、ひたすらに進んでいく覚悟です。

現在三十八歳の私は、政治の世界では若輩者かもしれませんが。しかし「人づくり」は二十年、三十年と長い時間を必要とします。私たちの世代が、これまで雄々しくも穏やかな日本人の形を作ってこられた先輩方の積み重ねを守り、引き継ぎ、そして前に進めながら、これからの時代の日本を形作っていきます。その気概で次の世代を牽引することによって、これからを生きる若者や子どもたちに前に進む力を示していきたい。

どうか、私、大石仁人に皆さまのお力を授けてください。未来の日本国、北九州市を創ろうという志に、皆さまの想いを託してください。私のふるさと北九州市、そして日本の美しさ、温かさを守り、底力を取り戻すことで、すべての人が、若者や子どもたちがここに生まれて良かったと思える未来を創るために、命をかけて邁進する所存です。

末筆となりましたが、皆様の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

謹白

令和五年

北九州市議会議員

大石仁人